

学校目標『元気いっぱい 自分から学び 共に高め合う西与賀っ子』の育成

西 にしよかっ子

令和 6年3月22日(金)
文責 校長 本村 一浩 第13号
☎ 0952-23-6300

㊦ここにあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨ろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■ 佐賀県レベル以上で表彰のお子さん！ おめでとう！！

コンクール名・賞名	年組	氏名
新年席書会 毛筆の部 佐賀県入選	4-1	川副 麻結

2月29日付の第12号で、「最後の紹介だろう」と伝えましたが、嬉しいことにまだありました。これで本当の最後です。川副さんは、3月の全校集会で表彰されました。

■ 温かな1・2・3年生とのお別れ式、そして卒業証書授与式でした！

今年度の卒業証書授与式の参加については、「アフターコロナ」ということで、ご家庭：制限なし、ご来賓：コロナ禍前の半分程度（西与賀地域各団体の長の方中心）のご参加と考えました。コロナ感染症が、法での扱いが2類から5類になったことで、多くの方々に巣立ちを見守ってほしいとの思いからです。そうすると、式場のスペースの関係上、下級生が式に参加できなくなります。残念ながら卒業証書授与式への参加は4・5年生として、1・2・3年生は、当日は自宅学習の措置としました。

その代わりに、卒業証書授与式前日の1時間目に、「1・2・3年生とのお別れ式」を催し、最後のお別れを惜しみました。校長の話で、私がうっかり、「人のために流す涙は美しい。今日はお世話になった6年生との別れを惜しんで、美しい涙を流しましょう。」と言ったものですから、純粋な1年生は感極まり、式中から号泣、滂沱の涙を流す子も数人いました。周りの同級生や卒業生は、その姿を見て苦笑するのかと思いきや、そこは思いを受け止めて泣いている子の肩を抱いたり背中をさすったり、優しい言葉をかけたりしていました。心が温まる瞬間でした。簡単な呼びかけや歌の交換をし、式の終了後、1年生は手作りの色紙のお花をプレゼントしていました。子供の手作りですから、当然高価なものではありません。でも、1年生と6年生は特別な関係があります。1年生にとっては、入学式から温かい言葉をかけてもらい、1年間かけて学校行事や各種活動に適應するように見守り、励まし、教えてくれた6年生です。そして、その協同の活動から醸し出された信頼とあこがれのまなざしが6年生を最上級生にしていきます。彼らは、12歳だから最上級生なのではなく、共に進む下級生（特に1年生）がいるから、最上級生になれるのだと考えています。1年生は言葉と共に手作りのお花を渡していました。枯れるものではないので、そのお花が、できるだけ長く、卒業生の自宅の机回りに飾られていることを望んでいます。ちなみに卒業証書授与式の前日の給食は、「佐賀牛のサイコロステーキ」！給食室からの温かい心配りが表れていました。



そして翌日は、卒業証書授与式でした。やや肌寒い朝でしたが、天候は快晴！48名の卒業生を祝うかのような好天に恵まれました。30名弱のご来賓を迎え、厳粛な中にも温かい、雰囲気の良い式でございました（私が言ったら自画自賛ですが、ご来賓の方数名がおっしゃったことです）。素直で真っすぐなあの子たちにふさわしい、参加した方々の気持ちがよく表れた式だったと思います。感動して涙する子もいるのかな、とも思っていました。最後まで気丈に、ご家族の方々と共に在校生・職員・地域住民の有志の方々・児童クラブの児童・先生方の最後の見送りを受け、去っていきました。



地域の方々のサプライズお見送り

この日は、たくさんの地域住民の方々がサプライズで来て下さいました。恒例（…ということはサプライズではありませんが…）となった「にしー」の着ぐるみと共に、最後のお見送りです。「卒業おめでとう」の横断幕（横断パネル?）もご持参下さいました。地域住民の方々に愛されている、本校ならではの光景です。左の白黒写真では、ちょっと伝わりにくいでしょうか？

真では、ちょっと伝わりにくいでしょうか？

ここ2日は、教職員も在校生も、6年生のいない西与賀小で過ごしています。1学年ないだけなのですが、何だか心にぽっかり穴が開いたようです。6年生の進路はそれぞれですが、多くは、地元の城西中学校に進みます。時には遊びがてらでもいいので顔を出して、元気な姿を見せてほしいものです。

■ ちょびっとニュース

- ① 級外として6年生を中心に、3年生や2年2組でも授業をしている楠原 朱音（くすはら あかね）先生が、産前の休暇に入りました。予定日は、5月4日です。その代替として、佐賀大学大学院の学生、松尾 泰輝（まつお たいき）さんが非常勤講師として3月11日（月）から22日（金）まで勤務します。身分上はまだ学生ですが、教育学部を修了し卒業していますので、小学校教員免許状を有している方です。佐賀大学大学院からも非常勤講師として勤める許可は得ています。昨今、代替で勤めて下さる教職員が不足気味なのです。4月1日からの産休・育児代替には、別の職員の任用を考えています。大学院が春休みのうちの苦肉の策です。
- ② 6年2組担任の石崎 極（いしざき きわむ）先生の奥様が、3月9日に第1子となる男児を無事に出産されました。おめでとうございます！

■ 教職員の定期異動

佐賀新聞では、昨日の電子版から、紙版では本日の朝刊に佐賀県教職員の定期異動の記事が掲載されています。児童からすれば慣れ親しんだ先生方の異動はつらいものですが、佐賀県全体の教育環境を整え、適材適所を推進するためには、この時期の異動は、必要不可欠です。ある意味、公務員の宿命です。本日、3時間目に辞任式を行い、去っていく先生方と児童とのお別れをしました。大変お世話になりました。

新聞を見ていただければ、概要はお分かりかと思いますが、子供たちにも誰が転出していったのか聞いてみて下さい。転出入、退職等の詳しい状況については、来年度の学校だより第1号に掲載する予定です。